

## 第2部

# 岩手のくらし

## 第2章 家族・子育て

～家族の形に応じたつながりや支え合いが生まれ、  
また、安心して子育てをすることができる岩手～

# 1 安心して子どもを産み育てられる環境

## 安心な子育て環境整備について満足が不満を上回る

### ■ 安心な子育て環境整備について満足が不満を上回る

令和3年（2021年）県の施策に関する県民意識調査によると、「安心して子どもを産み育てられ、子育てがしやすい環境であること」について、重要（「重要」＋「やや重要」）と意識している人の割合は、県計で77.7％となっており、広域振興圏別では、県南で79.4％と最も高くなっています（図1）。

また、満足（「満足」＋「やや満足」）と意識している人の割合は、県計で28.8％となっており、不満（「不満」＋「やや不満」）の21.9％を上回っています。広域振興圏別では、満足の割合が最も高いのが県央で31.2％となっています（図2）。

### ■ 保育所利用児童数、待機児童数は減少

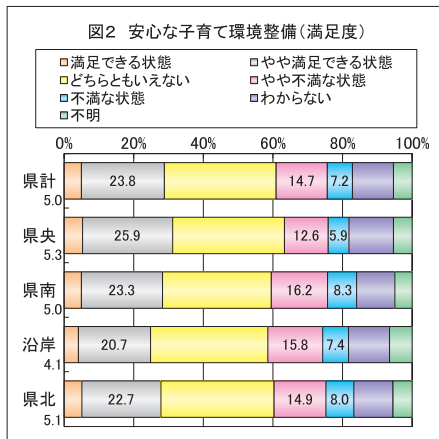
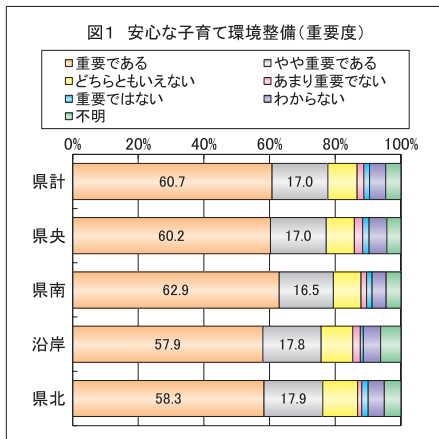
本県の保育所利用児童数は全国と同様に概ね増加傾向で推移していましたが、ここ2年は減少が続いています（図3）。

また、本県の保育所待機児童数は、令和3年（2021年）4月1日現在12人と、令和2年（2020年）以降、大幅に減少しています（図4）。

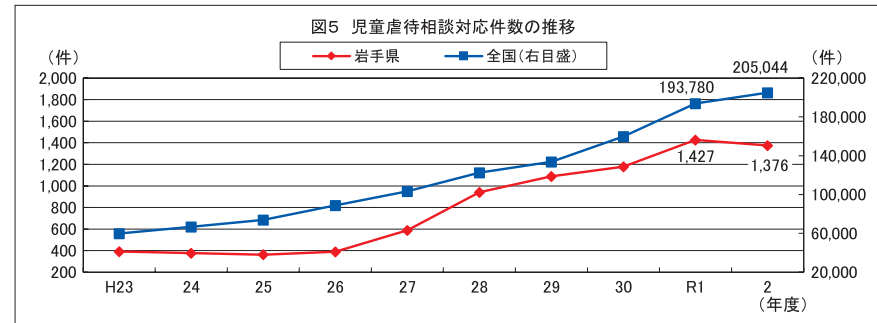
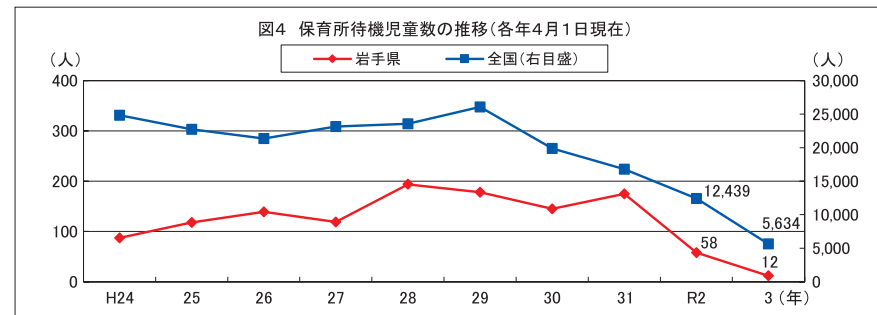
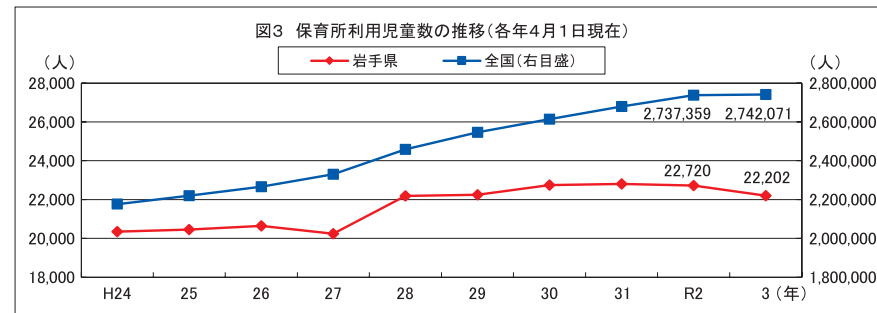
### ■ 児童虐待相談対応件数は減少

児童虐待相談対応件数の推移をみると、全国では一貫して増加傾向にあります。本県では平成23年度（2011年度）から平成26年度（2014年度）まで概ね横ばい、平成27年度（2015年度）以降、全国同様増加傾向で推移していましたが、令和2年度（2020年度）は減少しました。（図5）。

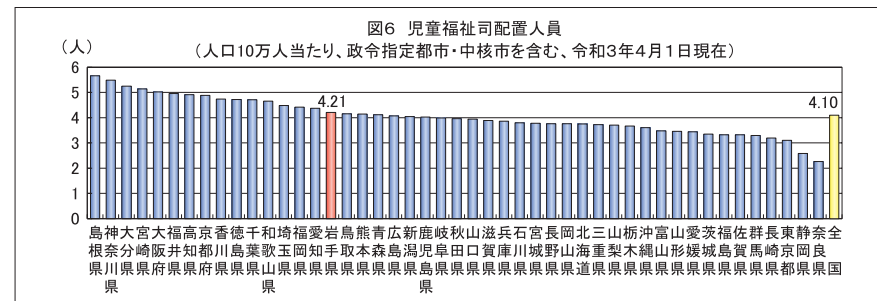
なお、児童相談所で非行や障がい、虐待などの相談を受け、必要な調査や指導を行う児童福祉司の本県における配置状況は、令和3年（2021年）4月1日現在、人口10万人当たり4.21人で、全国平均の4.10人を上回っています（図6）。



資料：県ふるさと振興部「令和3年県の施策に関する県民意識調査」



以上資料：厚生労働省



資料：厚生労働省、総務省統計局「国勢調査」

## 放課後児童クラブの待機児童数は大幅に減少

### ■ 学校行事や地域で子どもを育てる活動をしている人は2割弱

令和2年（2020年）県民生活基本調査によると、「学校行事や地域において子どもを育てる活動に参加している」人の割合は、19.8%となっており、平成30年（2018年）の21.9%を下回っています（図1）。

参加している活動の内容は、「PTA活動や運動会などの学校行事」が72.7%で最も多く、次いで「あいさつなどの声かけ運動」が62.2%、「地区子ども会活動」が60.8%などとなっています（図2）。

### ■ 保護者や地域の人々が学校行事の運営などの活動に参加している割合は全国を上回る

令和3年度（2021年度）全国学力・学習状況調査によると、「保護者や地域の人々が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加している」（「よく参加している」＋「参加している」）割合は、小学校で96.2%、中学校では87.0%となっています。東北各県及び全国平均を比較すると、小学校は東北6県で3位となっており、全国平均95.7%をわずかに上回っています。また、中学校は東北6県で4位となっており、全国平均の85.3%を上回っています（図3）。

（注）保護者や地域の人々が学校行事の運営などの活動に参加している割合：

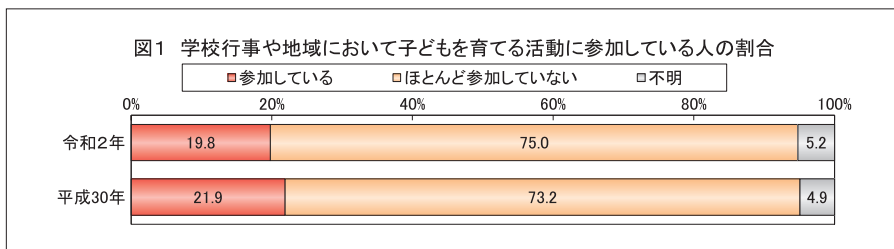
「あなたの学校では、保護者や地域の人々が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか。」の設問に「よく参加している」又は「参加している」と回答した学校の割合。

### ■ 放課後児童クラブの待機児童数は大幅に減少

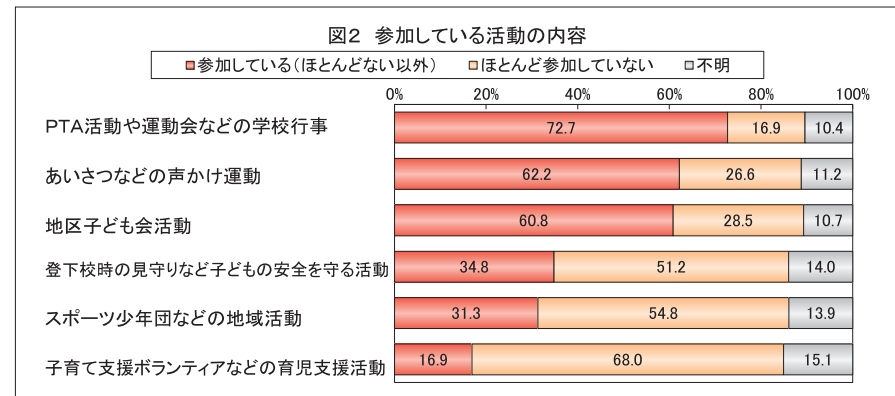
共働き家庭の増加などにより、小学校に就学している児童に放課後の適切な遊びや生活の場を提供する安全・安心な居場所づくりの充実がさらに求められており、放課後児童クラブの役割は重要なものとなっています。

令和3年（2021年）の本県の放課後児童クラブ数は、前年比8か所増の378か所となり、平成26年（2014年）以降でみると7年連続で増加しています。

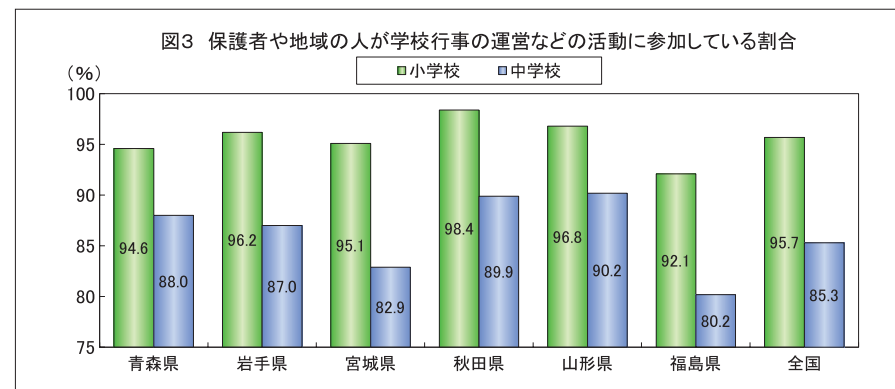
一方、令和3年の本県の放課後児童クラブ待機児童数は、前年比124人減の142人となり、3年ぶりに減少しています。平成26年以降でみると、平成29年（2017年）までは50～100人で推移していたものの、平成30年（2018年）に大幅に減少し12人となりました。その翌年の令和元年（2019年）に大幅に増加して以降、2年連続で200人を超えていましたが、令和3年は100人台まで大幅に減少しました（図4）。



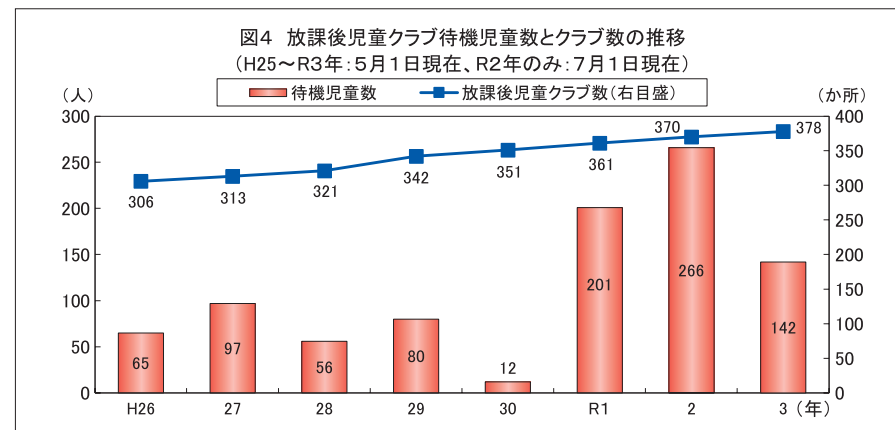
資料：県ふるさと振興部「令和2年県民生活基本調査」



資料：県ふるさと振興部「令和2年県民生活基本調査」



資料：国立教育政策研究所教育課程研究センター「令和3年度全国学力・学習状況調査」



※平成27年4月から施行された子ども・子育て支援新制度で、平成28年の待機児童数から対象を小学4～6年生にも拡大。  
資料：厚生労働省「放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の実施状況」

### 3 健全で、自立した青少年の育成

## 地域の行事に参加している児童・生徒は全国平均を大きく上回る

### ■ ボランティア活動をしている中・高校生は約4割

平成30年度（2018年度）青少年の健全育成に関する意識調査によると、ボランティア活動をしている中・高校生（※）の割合は、39.7%となっています。男女別では、女性が42.7%となっており、男性の36.6%を6.1ポイント上回っています（図1）。

※中学生、義務教育学校後期課程の生徒、高校生

### ■ 今住んでいる地域が好きな中・高校生の割合は約9割

平成30年度（2018年度）青少年の健全育成に関する意識調査によると、今住んでいる地域が好きな（「好きである」＋「どちらかといえば好きである」）中・高校生（※）の割合は、89.4%となっています（図2）。

地域別では、今住んでいる地域が好きな（「好きである」＋「どちらかといえば好きである」）中・高校生の割合が最も高いのが沿岸地域で92.4%となっています（図3）。

※中学生、義務教育学校後期課程の生徒、高校生

### ■ 中・高校生の刑法犯少年の検挙・補導人員は全国平均を下回る

本県の令和2年（2020年）の中学生・高校生の刑法犯検挙・補導人員は、生徒数1,000人当たり中学生1.2人、高校生0.8人と、全国平均の中学生1.6人、高校生2.3人を下回っており、全国40位となっています（図4）。

### ■ 地域の行事に参加している児童・生徒は全国平均を大きく上回る

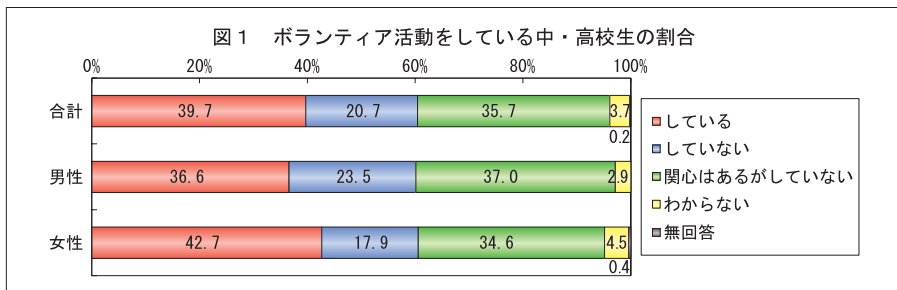
全国学力・学習状況調査によると、令和3年度（2021年度）の本県の今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合（注）は、76.3%となっており、全国平均の58.1%を18.2ポイント上回っています。平成27年度（2015年度）以降の今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合の推移をみると、本県、全国平均ともに横ばいとなっていたが、令和3年度は減少しています。

また、本県の今住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合は、62.9%となっており、全国平均の43.7%を19.2ポイント上回っています。平成27年度以降の今住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合の推移をみると、本県、全国平均ともに増加傾向にありましたが、令和3年度は減少しています（図5）。

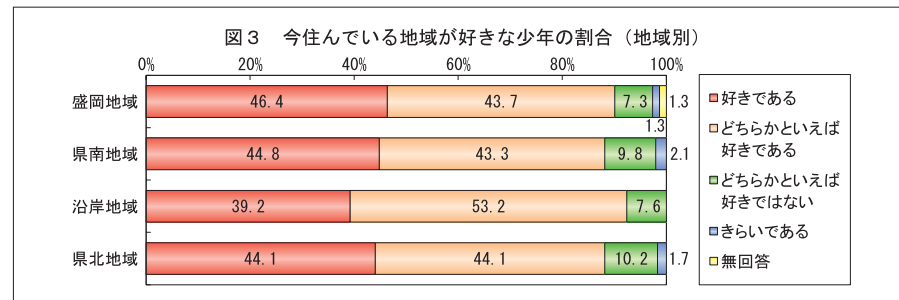
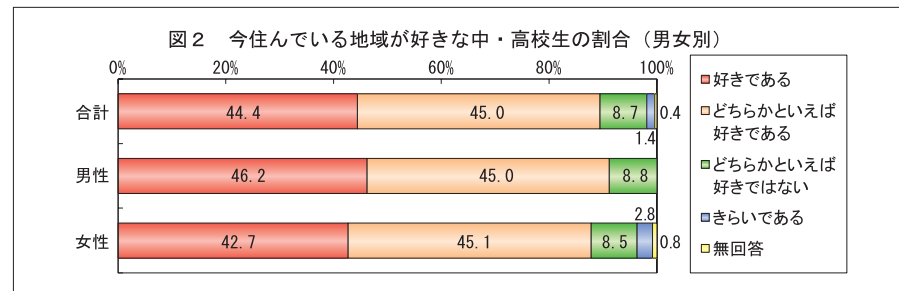
※児童は小学校第6学年、生徒は中学校第3学年を調査対象としている。

（注）今住んでいる地域の行事に参加している割合：

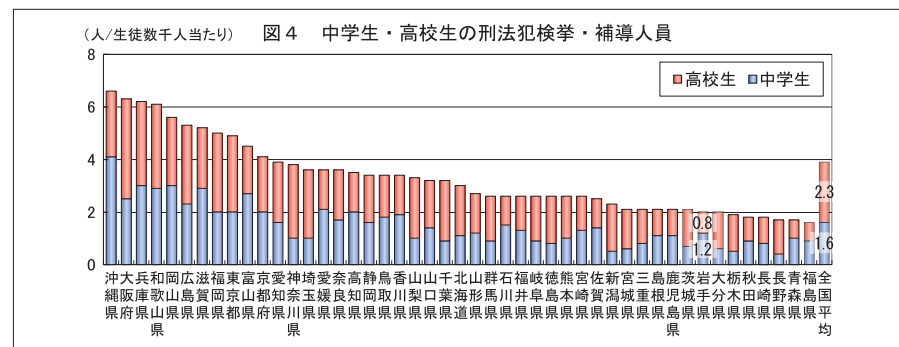
「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の設問に「当てはまる」又は「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合



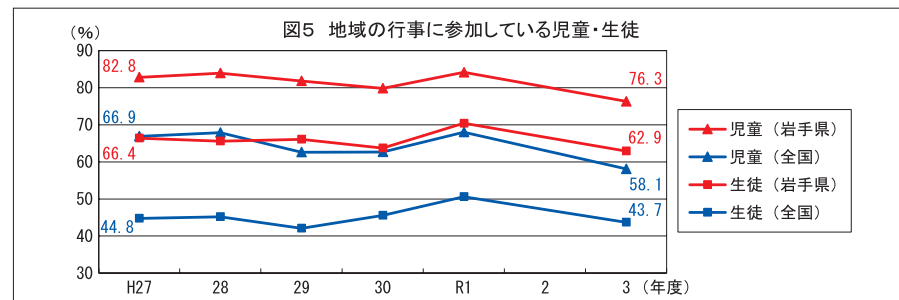
資料：県環境生活部「平成30年度青少年の健全育成に関する意識調査」



以上資料：県環境生活部「平成30年度青少年の健全育成に関する意識調査」



資料：警視庁「令和2年中における少年の補導及び保護の概況」



※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査が実施されなかった

資料：国立教育政策研究所教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」

## 4 仕事と生活を両立できる環境

### 育児休業等利用率、介護休業等利用率とも女性が男性を上回る

#### ■ 仕事と生活を両立できる環境については満足が不満を下回る

令和3年（2021年）県の施策に関する県民意識調査によると、「仕事と生活を両立できる環境であること」について、重要（「重要」＋「やや重要」）と意識している人の割合は、県計で80.8％となっています（図1）。

また、満足（「満足」＋「やや満足」）と意識している人の割合は、県計で26.3％となっており、不満（「不満」＋「やや不満」）の27.1％を下回っています（図2）。

#### ■ 年次有給休暇の取得率、取得日数とも全国平均を下回る

中小企業労働事情実態調査によると、令和2年度（2020年度）の本県の従業員一人当たり年次有給休暇取得率は、56.07％と全国平均の57.65％を下回り、全国では34位、東北では4位となっています（図3）。

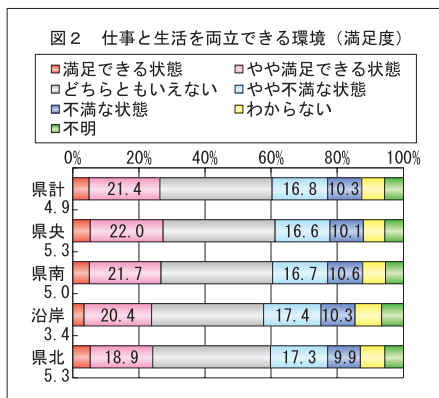
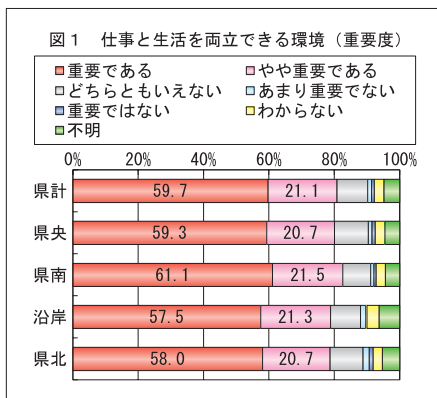
また、令和2年度の本県の従業員一人当たり年次休暇平均取得日数は、8.32日と全国平均の8.40日を下回り、全国では25位、東北では3位となっています（図4）。

#### ■ 育児休業等利用率、介護休業等利用率とも女性が男性を上回る

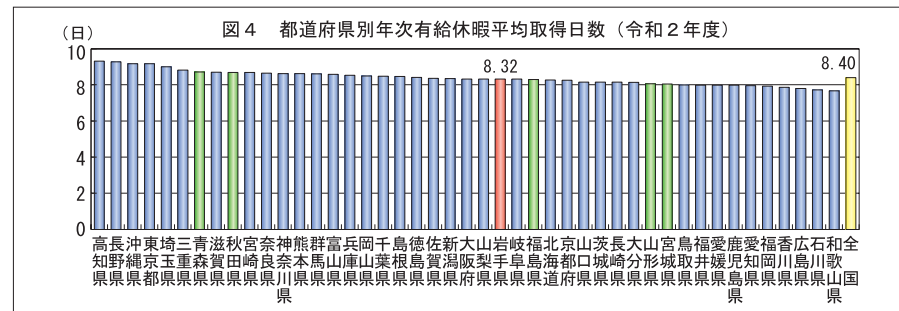
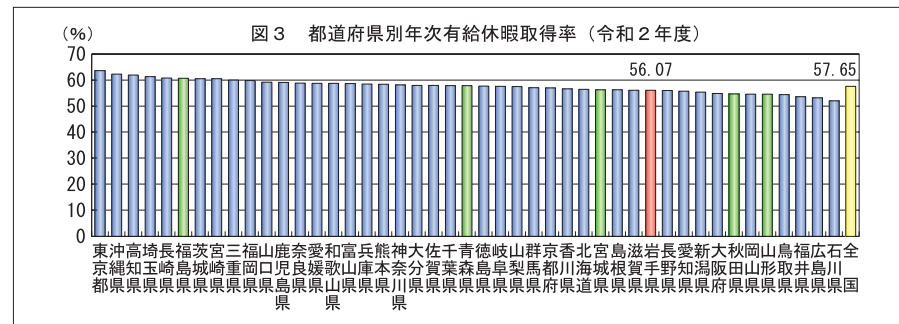
就業構造基本調査によると、平成29年（2017年）の本県の育児休業等利用率（注1）は17.8％となっています。男女別にみると、男性が7.5％、女性が27.7％となっており、女性が男性を20.2ポイント上回っていますが、男性の利用率は全国の5.7％を1.8ポイント上回り、東北では2位となっています（図5）。

また、平成29年の本県の介護休業等利用率（注2）は6.8％となっています。男女別にみると、男性が5.2％、女性が8.0％となっており、女性が男性を2.8ポイント上回っています。男性の利用率は全国の7.4％を2.2ポイント下回り、東北では4位となっています（図6）。

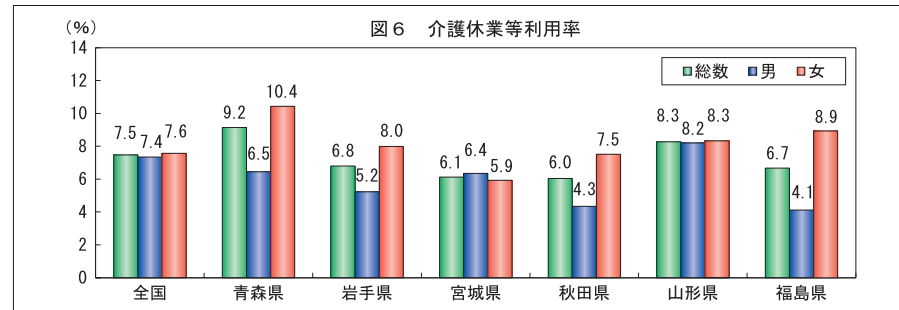
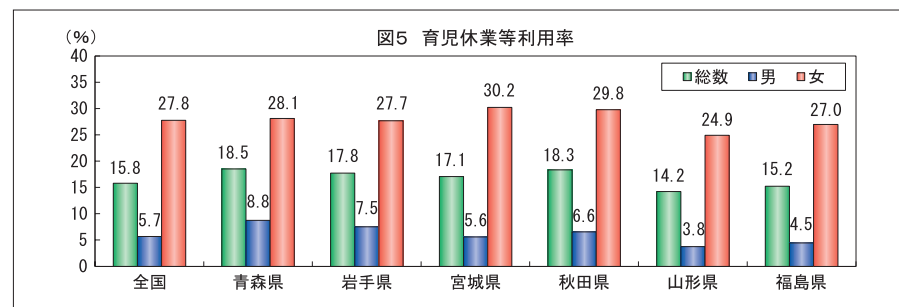
（注1）有業者で育児をしている者のうち、育児休業等制度の利用がある割合  
（注2）有業者で介護をしている者のうち、介護休業等制度の利用がある割合



以上資料：県ふるさと振興部「令和3年県の施策に関する県民意識調査」



※ 栃木県、静岡県を除く  
以上資料：全国中小企業団体中央会「中小企業労働事情実態調査」



以上資料：平成29年就業構造基本調査



5 動物のいのちを大切にする社会

犬猫の引取り数、殺処分数はともに減少傾向

■ ペットなど動物のいのちを大切にする社会については7割弱が重要と意識

令和3年（2021年）県の施策に関する県民意識調査によると、「ペットなど動物のいのちを大切にする社会であること」について、重要（「重要」＋「やや重要」）と意識している人の割合は、県計で67.0％となっています（図1）。

また、満足（「満足」＋「やや満足」）と感じている人の割合は、県計で25.4％となっており、不満（「不満」＋「やや不満」）の12.0％を上回っています（図2）。

■ 全国を上回る狂犬病予防注射接種率

本県の犬の登録数は減少傾向で推移しており、令和元年度末（2019年度末）は62,540頭で、10年前の約8割となっています。

一方、狂犬病予防注射接種率（注）は平成22年度（2010年度）以降、おおむね85％～90％の間を横ばいで推移しており、全国を上回っています（図3）。

（注）狂犬病予防注射接種率：予防注射済票交付数／犬の登録頭数×100

■ 犬猫の引取り数、殺処分数はともに減少

本県の犬猫の引取り数及び殺処分数はともに減少しています。引取り数について令和2年度（2020年度）と平成23年度（2011年度）を比べると、犬猫ともに約7割減となっています。

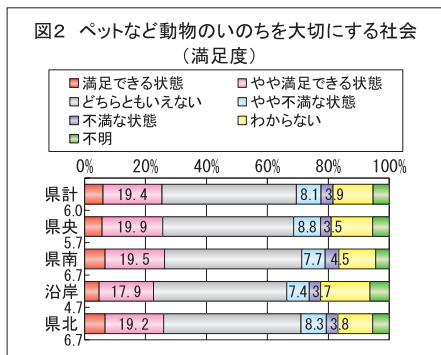
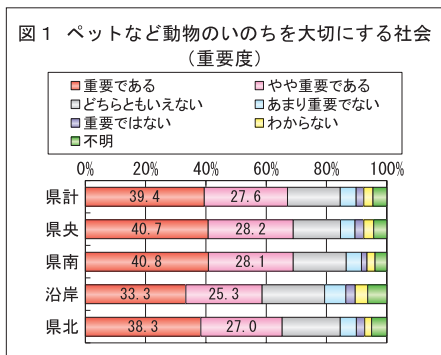
また、平成25年（2013年）9月1日に施行された改正動物愛護管理法で引き取った犬猫の返還・譲渡に関する努力義務が設けられ、犬猫の殺処分数は平成26年（2014年）以降、大幅に減少しました（図4、5）。

■ 全国平均を上回る犬猫の返還・譲渡率

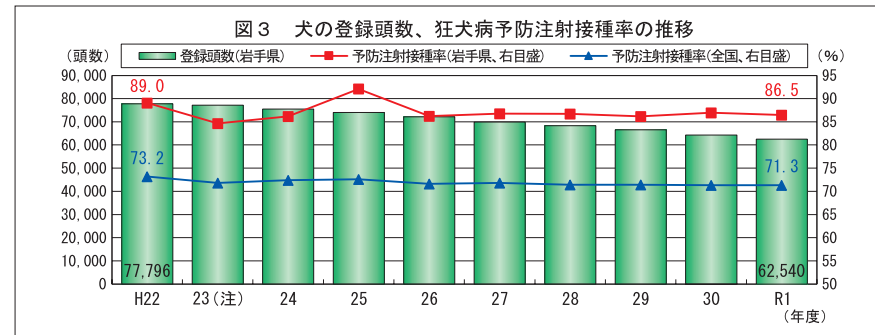
令和2年度（2020年度）の本県の犬の返還・譲渡率（注）は、98.5％と全国の87.6％を10.9ポイント上回り、全国で14位、東北では3位となっています（図6）。

一方、令和元年度（2019年度）の本県の猫の返還・譲渡率は69.6％と、全国の56.7を12.9ポイント上回り、全国で20位、東北では1位となっています（図7）。

（注）返還・譲渡率：（返還数＋譲渡数）／引取り数×100

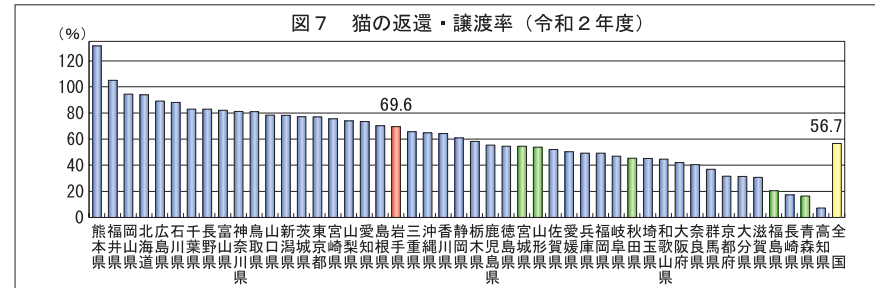
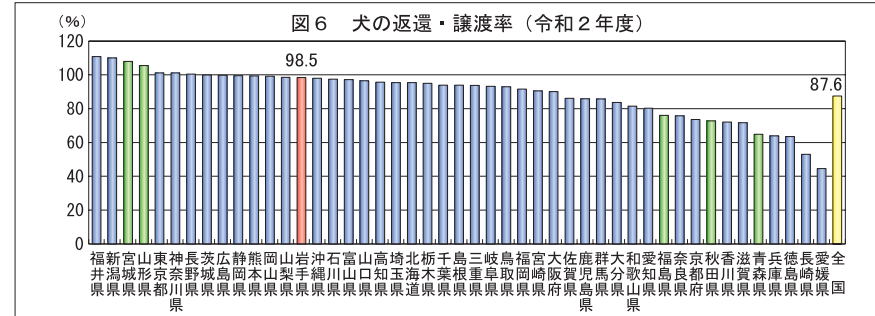
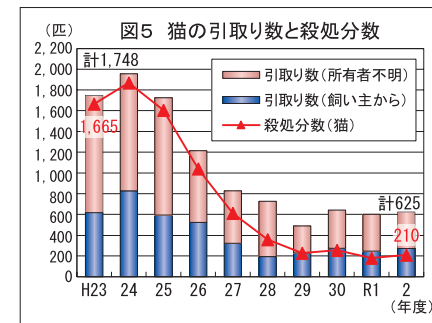
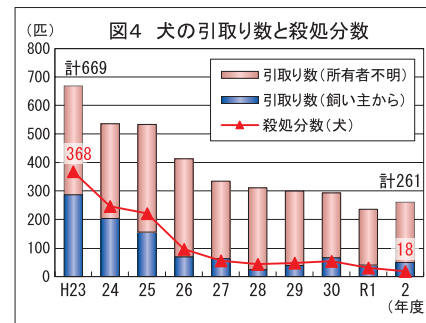


資料：県ふるさと振興部「令和3年県の施策に関する県民意識調査」



（注）東日本大震災の影響により、岩手県陸前高田市及び大槌町の1～3月分、宮城県のうち仙台市以外の市町村、福島県の相双保健福祉事務所管轄内の市町村が含まれていない。

資料：厚生労働省「衛生行政報告例」



以上資料：環境省「動物愛護管理行政事務提要」